

「愛知の児童文化」資料集（その1）

文化科学研究所児童文化研究グループ

これまで『愛知県史』をはじめ、県内におけるほとんどの市町村では、〈史誌〉が刊行されている。また近年では地域文化重視の時代をふまえ、それぞれの郷土に関する著作も多く出版されている。だがこうした著作物のなかには〈子どもの文化〉に関する情報はほとんど含まれていない。本来〈子どもの文化〉は未来に連なる〈国民文化〉の礎をなし、文化変容と形成のうえで重要な核となるが、軽視されがちとなっている。

本研究所児童文化グループでは、こうした状況のなかで愛知県内の〈子どもの文化〉を見直すとともに、地域研究の一端として過去を振りかえりながらも、現在、〈子ども文化〉の実態がどのようになっているかについて調査し、ひとまず研究上の基礎資料としてここにまとめることとなった。

次は資料全体の主な構成である。

1. 児童文化関連施設（歴史・民俗・自然・産業・科学・芸術・芸能・スポーツ・遊びなど）
2. 児童文化団体（文学・演劇・舞踊・音楽など）
3. 文化人名（作家・詩人・評論家・研究者・翻訳家・劇作家・作曲家・演出家・活動家など）
4. 事項（児童文化に関する重要な事項）

上記のうち、この号には「児童文化関連施設」の「歴史・自然・産業（一部）」の部を掲載する。その選択にあたっては、児童のための固有な施設でなくとも、子どもたちにとって有益な直接体験・間接体験になりうる施設をも含めた。施設の配列については地域別とし、尾張地区から三河地区へ、北から南へと順に並べた。掲載した施設以外にも、子どもの体験にとって有益な施設があると思われるので、そのような場合にはどうぞご推挙ください。検討して、後日誌上にて〈補てん〉させていただきます。計なお、執筆にあたっては、人物名については敬称を省略した。また各施設刊行の諸著作物を参考にさせていただいたし、多くの方々に取材協力をしていただいた。末尾ながら感謝の意を表したい。

執筆者（所員） 原 昌（準所員） 磯部孝子、熊沢順子、新居正子、服部裕子
（調査員） 今井美都子 岩本寂、高木孝子、夏目いずみ、山田泉
（執筆協力者） 伊藤優子、柏原正尚、近藤洋子、遠山光嗣

〈歴史・民俗の部〉

国宝犬山城 こくほういぬやまじょう

1537年（天文6）、現在の位置に天守が造営され、織田与次郎信康（織田信長の叔父）が城主となった。その後、何代か城主がかわり、1600年（慶長5）石川氏、小笠原両氏の手によって近世の犬山城が完成。1617年（元和3）なるせはやとのしょうまさなり成瀬隼人正正成が城主となってからは、成瀬家に代々受け継がれ現在に至っている。全国唯一の個人所有の城である。木曾川の南岸にそそり立つ日本最古の桃山風の天守閣は、望楼風天守とも呼ばれ国宝に指定されている。最上部の展望台からは木曾御岳、恵那山、濃尾平野、伊吹山などが一望できる。

子どもにとっては、400年も昔、木造でしかもこれだけの高さ、大きさの建物を建てる技術があったことを知ることができる。城の中では、どんな事が行われていたかを考え、城を取り巻く城下の町、木曾川の河川、堀などそれぞれに役割があったことを学ぶことができる。

所在地 犬山市大字犬山字北古券 65-2

☎ (0568) 61-1711 有料

アクセス 名鉄「犬山遊園」駅

[参考資料] リーフレット類（同管理事務所刊）

明治村 めいじむら

明治建築を保存展示する野外博物館として、名古屋鉄道株式会社によって、1965年（昭40）に開村。入鹿池に面した約100万m²の丘陵地に、現在約60の建造物が移築・復原されている。いずれも建築上、芸術上価値

の高いもので、国重要文化財8件を含み、その種類も多様で、皇室別邸、庁舎、裁判所から、学校や教会、そして庶民生活に密着した医院、簡易郵便局、銭湯にまで及んでいる。なお、室内にはそれぞれ関連した資料展示がある。なお、愛知県内の建造物としては、菊の世酒蔵（刈谷）、半田東湯（半田）、東松家住宅（名古屋）ほか4件を含んでおり、かつて弥富〜一宮間を走った尾西鉄道蒸気機関車1号も展示されている。

これらの明治建築には、わが国の伝統的な木造建築と欧米の様式・技術・材料を取り入れた洋風建築との調和した美しさがあり、子どもたちにはこうした建築美に触れさせるとともに、室内展示の文化的資料から、当時の生活をもしのばせることができる。また村内を走っている明治の市電・SLに乗ったり、四季折々の自然豊かな丘陵地での散策を楽しむことができる。

所在地 愛知県犬山市内山1

☎ (0568) 67-0314 有料

アクセス 名鉄「犬山」駅・バス「明治村口」

[参考文献] 『明治村』（名古屋鉄道株式会社刊、1993）

師勝町歴史民俗資料館 しかつちょうれきし みんぞくしりょうかん

1990年（平2）に師勝町によって設立。明治期以降の農具・生活用具を収集している。とくに力を入れているのは、第二次大戦後の資料収集で、なかでも経済の高度成長期の始まる〈昭和30年代〉である。博物館・資料館というと、古いものほど価値があるという考えが一般的であるが、その一方で、少し前の身近な物がどんどん姿を消してしまっている。この資料館では、その点に注目し、他の博物館が見落としている現代の生活用具に蒐

集の重点を置いている。この種の博物館・資料館としては斬新なアイデアを打ち出し、新たな可能性を形にして見せている。

年3回の企画展がそれで、「屋根裏の蜜柑箱は宝箱」(93年)、「日常が博物館入りする時」(97年)、「昭和モノ図鑑を作る」(97-98年)などと題し開催している。時代を写し出す物として、身の回りの懐かしいおもちゃや日用雑貨が取り上げられるため、子どもにも大人にも好評で、師勝町の住民だけでなく遠方からの見学者も多数訪れている。

所在地 西春日井郡師勝町大字熊之庄字御櫛53
☎ (0568) 25-3600 無料
アクセス 名鉄「西春」駅

ふれあい郷土館 清洲城天守閣 ふれあいきょうどかん きよすじょうてんしゅかく

清洲城は、室町時代の初め、しばよししげ斯波義重により築城され、後に郷土の英傑、織田信長の居城となった。

1989年(平元)に町制100周年記念事業として、清洲城天守閣の威容を今に再現。展望台からは、眼下に清洲の街並、遠くに名古屋城が望める。郷土歴史コーナーには、信長ゆかりの品をはじめ城下町として栄えたころのものや遺跡出土品など、郷土の文化・歴史に関する資料展示があり、郡内文化コーナーには、西春日井郡の祭り、文化、特産品が展示してある。また信長当時の居室を復元し、信長が出陣を前にあつもり謡曲敦盛を舞う「おけはさま桶狭間出陣」の場を再現。周囲には芸能文化館、はなのき広場、遊歩道がある。

子どもたちにとっては、織田信長に関する展示、「桶狭間出陣」の再現場面などを通して当時の戦場をしのび、戦国時代の歴史に触れることができ、楽しく学んだり、語ったりで

きる場となっている。

所在地 西春日井郡清洲町大字朝日字城屋敷1-1

☎ (052) 409-7330 有料

アクセス JR「清洲」駅、または名鉄「新清洲」駅

[参考資料] リーフレット類(同郷土館刊)

愛知県清洲貝殻山貝塚資料館 あいちけんきよすかいがら やまかいづかしりょうかん

東海地方のなかでも最大級の弥生時代の遺跡朝日遺跡(貝殻山貝塚を含む)からの出土品を保管、公開する目的で愛知県が建設。1975年(昭50)4月に開館。朝日遺跡は、弥生時代全期にわたる集落跡を中心とする遺跡で、その推定面積は80万m²にも及ぶ。有力者一族が葬られたと考えられる「ほうけいしゅう方形周溝墓」と呼ばれる墓や、多数の土器・石器・木器・骨角器といった生活道具のほか、銅鐸、銅鏡など、祭りに用いた金属器も見ついている。

貝殻山貝塚は、弥生時代の初め(約2300年前)の貝塚で、カキ、ハマグリなどの貝殻、獣骨が堆積しており、弥生時代前期の土器も見ついている。なお、現在、国指定史跡。

子どもたちにとっては、復元された住居やこの貝塚からの多種多様な出土品の展示によって弥生時代のような生活を理解することができる。また古代の火起こしの体験ができ、弥生土器の実物に触れてみることもできる。98年度から休館、2000年度には、改築されてオープンの予定。

所在地 西春日井郡清洲町大字朝日字貝塚1

☎ (052) 409-1467 有料(中学生以下無料)

アクセス JR「清洲」駅、または名鉄「新清洲」駅

[参考資料] リーフレット類(同資料館刊)

名古屋城 なごやじょう

徳川家康により東海道の要所の1つとして、1612年に築城され、明治維新を迎えるまで、徳川御三家の筆頭、尾張家の居城として栄えた。だが、1945年(昭20)の名古屋空襲の際、天守閣をはじめ建造物のほとんどが焼失。その後59年(昭34)には天守閣が再建された。24万m²にわたる広大な敷地には、外堀に囲まれて正門、表二之門、3つの櫓(国重要文化財)、2つの庭園、天守閣などがあり、97年(平9)には伝統芸能の拠点となる能楽堂が構内に完成、尾張名古屋のシンボリック的存在となっている。

子どもたちにとっては、近世を代表する歴史的建造物であり、敵からの防御ばかりでなく領地の統御の場であったという城の機能を考えさせるとよい。とくに名古屋城には隠し狭間はざまがあり、軒裏に隠した石落としがあって防御面で、巧妙な手法がとられていると言われる。なお、五層の天守閣は層塔型そうとうがたじょうかく城郭の代表的なもので、頂上には金鯱が映え華麗な建築美を誇っている。現在、城内には展示室があり、城の歴史と名古屋の歴史が学べるようになっている。

所在地 名古屋市中区本丸1-1

☎ (052) 231-1700 有料

アクセス 地下鉄「市役所」駅

【参考文献】『愛知百科事典』(中日新聞本社、1976)

名古屋市市政資料館 なごやしせいしりょうかん

1922年(大11)名古屋控訴院地方裁判所区裁判所として建設。79年(昭54)まで裁判所として使用。84年(昭59)国の重要文化財に指定される。89年(平元)10月より「名古屋

市市政資料館」として新たに活動を開始。

煉瓦れんがの赤、花崗岩の白、銅板の緑、スレートの黒を組み合わせたネオ・バロック様式の左右対称の建物は、地域のシンボルとなっている。3階常設展示室では、建物、市政、司法の3つをテーマに展示を行っており、1階では、留置場も見学できる。

子どもたちにとっては、建物自体がもつ歴史的雰囲気を経験できるとともに、名古屋市の政治・経済・産業・文化などのさまざまな展示を通して、名古屋市の誕生から今日に至るまでの歩みを理解することができる。また明治憲法下での裁判と現行での裁判の違いも理解できる。

所在地 名古屋市東区白壁1-3

☎ (052) 953-0051 無料

アクセス 地下鉄「市役所」駅

【参考資料】『常設展示案内』・リーフレット類(同資料館刊)

徳川美術館 とくがわびじゅつかん

尾張徳川家に伝えられた大名道具を広く公開する目的で、1935年(昭10)尾張徳川家十九代侯爵徳川義親によって創設。87年(昭62)開館50周年を記念し、増改築。公園と美術館が一体となって生まれたゆったりとした雰囲気の中で、最先端技術を駆使した建築でありながら、日本文化の伝統に浸ることができる。常設展示室では、名古屋城二の丸御殿を時代考証に基づいて復元し、美術品とそれらが使われた空間とが一体となって展示されている。企画展示室では、分野ごとにテーマを絞ってさまざまな企画展が催される。国宝「源氏物語絵巻」の原本は年1回、11月下旬頃に公開される。

子どもたちにとっては、江戸時代の大名道

具が使われていた状況とともに理解することができ、名古屋城での大名の暮らしぶりとその雰囲気を知ることができる。また夏休み期間には、小中学生向けのギャラリークイズ、歴史教室が開催される。

所在地 名古屋市東区徳川町 1017
☎ (052) 935-6262 有料
アクセス JR「大曾根」駅、またはバス「新出来」
[参考資料] 『徳川美術館への招待』(同美術館刊)

熱田神宮 あつたじんぐう

祭神は熱田大神で、あいどののかみ〈相殿神〉としてあまてらすおおかみ やまとたける天照大神、日本武尊などの5神がまつってある。いずれもくさなぎのみつるぎ草薙神剣と縁りが深い神々で、およそ1850年前に鎮座したと伝えられる。以降、正一位、「名神大社」として広く崇敬を集め、明治元年に神宮となった。だが1945年(昭20)に戦災により大半が焼失、55年(昭30)に本殿が再建され、つづいて諸施設が完成し、現在のような偉容を整えるにいたった。

子どもたちには、この機会に神宮にまつわる古い神々の物語や、草薙神剣の由緒に触れさせるとよい。また、古くから〈お宮まいり〉や七五三などで、親たちに親しまれてきたが、近年になって神宮主催の行事が盛んとなっている。1951年(昭26)に「緑陰教室」を開催、毎夏好評をえており、ここでは学習ばかりでなく、子ども自身の絵画・工作をはじめ、手品・音楽・映画・おはなしなどの娯楽的な話をも取り入れている。さらにこの教室から、ボーイスカウト、ガールスカウト、児童合唱団が誕生し活動しつづけている。そのほか、「書きぞめ大会」「写生大会」「粘土コ

ンクール」「太鼓教室」などを開催している。

所在地 名古屋市熱田区神宮 1-1-1
☎ (052) 671-4151
アクセス JR「熱田」駅、または名鉄「神宮前」駅

名古屋市博物館 なごやしはくぶつかん

1968年(昭43)名古屋市の人口200万人突破記念事業として計画され、77年(昭52)開館。収集資料12万点。尾張地域に関する文書典籍、考古、民俗、美術工芸資料を収集、保存、公開している。常設展「尾張の歴史」ほか、年6~7回特別企画の展覧会を開催。ビデオミュージアムには、ビデオ番組を自由に選んで鑑賞するコーナーと、精細な画像で資料などを紹介する番組が鑑賞できるハイビジョンコーナーがある。また資料を手にとつて触れてみるができる学習室がある。

子どもたちにとっては展示物、ビデオ番組を通して尾張地方の歴史を学ぶことができる。なお、子どもを対象に毎月家族映画会、夏休みには歴史教室が開かれ、8月には親子博物館週間として、アニメ映画の上映、常設展特別展を使つてのクイズラリーが行われている。

所在地 名古屋市瑞穂区瑞穂通 1-27-1
☎ (052) 853-2655 有料 (常設展は小・中学生無料)
アクセス 地下鉄「桜山」駅
[参考資料] リーフレット類 (同博物館刊)

名古屋市見晴台考古資料館 なごやしみはらしだいこうしりょうかん

見晴台遺跡は、弥生時代後期を中心とするかんごう「環濠集落」が良好に保存されている遺跡である。第二次大戦後、見晴台周辺は歴史公園として整備され、1979年(昭54)に考古資料館が名古屋市教育委員会によって建てられ

た。資料館では、見晴台遺跡のあらましや発掘調査の方法などを紹介する展示会や、考古学や歴史・文化に関する映画会や講演会などが開催されるほか、発掘した住居跡に実物大の竪穴住居の模型が建てられ見学できる。

毎年夏に行われる市民参加の発掘調査は、他の考古資料館には例がない。64年（昭39）以来市民の有志が遺跡調査をしてきた経緯を尊重し、開館の79年から「市民の体験学習の場」として毎年実施している。中学生以上の市内在住者・通勤通学者から希望者を募り、7月から8月の約5週間、1人2～3日の発掘体験を提供している。

所在地 名古屋市南区見晴町47（笠寺公園内）
☎ (052) 823-3200 無料（団体は要連絡）

アクセス 名鉄「本笠寺」駅、または地下鉄「鶴里」駅

【参考資料】『見晴台教室'96』・パンフレット・リーフレット類（同資料館刊）

岩崎城歴史記念館 いわさきじょうれきしきねんかん

1987年（昭62）、岩崎城の跡に岩崎町が開設。かつて岩崎城は織田信秀（信長の父）によって、16世紀享禄年間に築城され、その後丹羽氏清ら4代にわたる居城となった。1584年（天正12）、小牧・長久手の戦いの折、豊臣方の軍勢を迎え、城代丹羽氏重以下300余名が討ち死にして進行を阻止、徳川・織田軍を勝利に導いたと言われる。

4世紀後の1984年（昭59）、その死者たちの魂を慰めるため「落城400年祭」が举行され、この機に3棟の城郭を模した記念館建設の運びとなった。館内には遺跡からの出土品のほか、武士のレプリカや〈戦い〉の模型が

展示されている。とくに電動式のスライド・スクリーンとベルトコンベアによる動く模型とによって、戦国時代の岩崎城を取りまく歴史的背景や落城の様子が語られ、子どもたちがおのずから歴史に参加し、隠れた史実をも学びとる場となっている。また記念館の周辺地域が城址公園となり、空堀・井戸跡、二の丸庭園などがあって、近隣の小学生の遠足の場になっている。

所在地 日進市岩崎町市場67

☎ (05617) 3-8825 無料

アクセス 名鉄「日進」駅・名鉄バス「岩崎おんたけ口」

【参考資料】パンフレット・リーフレット類（同記念館刊）

吉良町歴史民俗資料館 きらちょうれきし みんぞくしりょうかん

農業と水産の町吉良町の古墳・遺跡からの出土品、生活用品などを展示するために、1982年（昭57）に開館した。主な展示品は、岩場古墳出土品の埴輪棺・埴輪円筒等、岩谷古墳出土品、若宮古墳出土品、旧家からの美術工芸品・家具類等生活民具、塩田道具などがある。

また吉良といえば、「忠臣蔵」の吉良上野介義央すけよしひさが有名である。義央は塩田開拓や治水など、数々の善政により、領民から慕われた名君として、今もこの地の人々の記憶に生き続けていて、同館の展示には吉良氏のコーナーもある。

さらに隣接する吉良文化広場内には「塩焼き小屋」がある。江戸時代初期に開発され、1953年（昭28）まで続いた「入浜式塩田工法」の探かん工程（海水をいったん濃い塩水にする）とせんごう工程（濃い塩水を釜で煮つめる）を当時の道具および写真パネルで紹介

介している。

所在地 幡豆郡吉良町大字白浜新田字宮前59-1
☎ (0563) 32-3373 無料
アクセス 名鉄「吉良吉田」駅
[参考資料] リーフレット・資料集(同資料館刊)

半田市立博物館 はんだしりつはくぶつかん

1984年(昭59)に郷土資料館を拡大させ半田市により建設。半田市誌の編さんを進めるなかで、発見されたり、寄贈されたりした資料に貴重なものが多く、それらを収蔵し展示したりするために開設された。

常設展示室Ⅰには「知多半島の自然と原始・古代から近代までの歩み」、常設展示室Ⅱには「江戸時代から受け継がれた祭礼の歴史」、常設展示室Ⅲには「“酢”に育つ町半田、伝統の酢造り」を再現。3つの展示により半田市の自然、歴史、文化生活を知ることができる。とくに常設展示室Ⅱには、3体のからくり人形があり、それらの人形の糸からくりの操作ができる点が、子どもたちにも人気がある。

所在地 半田市桐ヶ丘4-7-3 無料
☎ (0569) 23-7173
アクセス 名鉄「知田半田」駅
[参考資料] リーフレット類(同博物館刊)

岡崎城 おかざきじょう

15世紀前半に西郷^{つぎより}頼頼によって東宿(現在の明大寺町)に築城されたが、1530年に徳川家康の祖父松平清康によって現在の地に移築され、42年に家康がこの城内で誕生した。その後この岡崎城は、家康の天下統一の拠点となり、江戸に幕府が開かれた後も、「神君出生の城」として神聖視され、本多氏、水野氏、松平氏などが城主となった。明治維新後に城

郭の大部分が取り壊されたが、1959年(昭34)に天守閣が復元された。

現在、天守閣は江戸時代の岡崎を紹介する歴史資料館になっており、2階は「藩政と支配」、3階は「城下町の文化と産業」、4階は「城と城主」とテーマごとに分かれ、文献・書画・武具などの資料が展示されている。

岡崎城の城跡である岡崎公園には、家康産湯の井戸や家康の〈えな塚〉、能楽堂・茶室などがあり、藤や桜の名所として知られている。

所在地 岡崎市康生町561 岡崎公園内
☎ (0564) 22-2122 有料
アクセス JR「岡崎」駅、または名鉄「東岡崎」駅
[参考資料] リーフレット類(同城刊)

三河武士のやかた家康館 みかわぶしのやかたいえやすかん

1982年(昭57)に岡崎市によって開館。延床面積1648m²。岡崎出身の徳川家康の人間像と、家康とともに天下統一に貢献した三河武士団の人間模様や時代背景が理解できるように、文献・絵画・武具などの歴史的資料を展示している。

地階の常設展示室では、鎌倉時代から家康死去までの420年間の足跡を、次のような8つのテーマに分け、コンピューターグラフィックを取り入れながら、時代順に展示紹介している。①三河武士の源流 ②室町幕府と三河武士 ③松平氏の飛躍と譜代家臣の形成 ④出生から人質時代 ⑤家康の三河平定 ⑥武田氏との抗争 14年間 ⑦豊臣政権と家康 ⑧江戸時代の基を築いた家康。さらに1階ビデオルームでは、100インチの大画面によるビデオ鑑賞も楽しめる。

特別展示室では、秋の特別展をはじめ、企

画展・館藏品展が年数回開催され、資料室には、専門書や歴史小説のほかに家康と三河武士についての児童書が所蔵されている。

所在地 岡崎市康生町 561 岡崎公園内
☎ (0564) 24-2204 有料
アクセス JR「岡崎」駅、または名鉄「東岡崎」駅
[参考資料] リーフレット類 (岡崎市刊)

三州足助屋敷 さんしゅうあすけやしき

1980年(昭55)に地域振興の一環として足助町により建設。「山里の暮らし」「手仕事の再現」を通して、土から離され、手足を使わなくなった現代の文明社会や消費社会に対する問いかけを目的としたものである。3000m²の敷地内には母屋・土蔵・作業小屋など農家の建物10棟が再現され、紙すき・機織り・木炭・桶作り・漆塗り・番傘作りなどの9つの手作業がむかしのままで実演されている。

子どもたちは、こうした昔の山里の人々の暮らしぶりに接し、職人の分業によって成り立っていた地域共同体のしくみを垣間みることができる。また香嵐渓、東海自然歩道がそばにあり、自然に触れながら、農村の原風景を身近に感じることができる。

所在地 東加茂郡足助町大字足助字飯盛 36
☎ (0565) 62-1188 有料
アクセス 名鉄「猿投」駅・バス「足助香嵐渓」
[参考資料] リーフレット類 (同屋敷刊)

山びこ民俗伝承館 やまびこみんぞくでんしょうかん

郷土文化の保存と伝承を目的として、1982年(昭57)に鳳来町によって設立された。

伝承館には、展示室・伝承室のほか、別棟として民家・武道館が設けられている。展示室には、実際に使用された民具が展示され、

それらを通して、山間集落から成り立っていた鳳来町の人々の暮らしと、それを培ってきた知恵と心を伝えている。第一のコーナーが「山の仕事」、第二が「田畑の仕事」、第三が「衣・食・住」、第四が「祭り・催し事」。第一の「山の仕事」では、木を植え、育て、切り、運びだし、用材にし、薪を作り、炭を焼くという仕事の順序に従って、それぞれの場で使われた道具が並べられている。

伝承室では、竹とんぼ・ワラゾウリ・ソバ作りなど、古くから伝わる手作りや手仕事を体験したり、武道館では弓・剣・柔道の練習のほか合宿もできる。また、とうもろこし刈り・いも堀りなど農業体験の機会も持てる。

所在地 南設楽郡鳳来町玖老勢字新井 9
☎ (05363) 5-1191 有料
アクセス JR「本長篠」駅・バス「学童農園前」
[参考資料] 『伝承館だより』(同伝承館・鳳来町教育委員会刊)・リーフレット類(同伝承館刊)

豊橋市二川宿本陣資料館 とよはしふたがわじゅくほんじんしりょうかん

江戸時代に発達した宿場町には、武士や一般庶民が泊まる旅籠屋・木賃宿と区別して、大名や公家、幕府役人などが休息宿泊する本陣が設けられた。二川宿は、二川宿と加宿大岩町からなる東海道五十三次の33番めの宿場で、二川宿本陣は江戸時代初期(17世紀前半)に作られた。東海道を現存する本陣は、わずかに二川宿と滋賀県の草津宿だけとなった。

1985年(昭60)に当主馬場八平三は、この本陣遺構の永久保存と活用を望み屋敷地を豊橋市に寄付。市はここを市史跡に指定して改修復元し、同時に資料館を建設した。91年(平3)に開設された資料館では「東海道」

「二川宿」「本陣」の3つのテーマのもとに、江戸時代の旅人や街道、この宿場町の様子などをビデオや実物展示を含め、子どもたちにも分かりやすく説明している。改修復元された本陣屋敷に入ると、20室以上も続く畳の部屋や、大名たちが使用した床が一段高くなっている上段の間や風呂、便所などを見ることができる。

所在地 豊橋市二川町字中町 65
☎ (0532) 41-8580 有料
アクセス JR「二川」駅
[参考資料] リーフレット類 (同資料館刊)

〈自然の部〉

日本モンキーパーク にほんもんきーぱーく

西側の「遊園地」と東側の「世界サル類動物園」を総称して「日本モンキーパーク」と呼ぶようになったのは1980年(昭55)からで、広さ約50万m²。「遊園地」は、60年(昭35)に名古屋鉄道株式会社によって設立された元「日本ラインパーク」であって、3種のジェットコースターなど大型遊具が立ち並ぶ娯楽施設である。一方「世界サル類動物園」は、1956年(昭31)に設立された財団法人「日本モンキーセンター」の博物館活動の中心施設であり、世界中のサル類を収集、約90種900頭の生きたサルを一般公開している。

「日本モンキーセンター」は、サル類の総合的研究、医学など実験用サル類の育成・供給、および野生日本ザルの保護などを目的としており、この「世界サル類動物園」のほか三河湾海上動物園の「猿が島」「うさぎ島」や、沖縄県石垣市(石垣島)に八重山研究所

などの施設を持つ研究機関である。

「世界サル類動物園」には、ゴリラ・オランウータン・チンパンジーを収容する「類人猿舎」、世界各地のサルたちがグループごとに入居している「モンキーアパート」、熱帯ジャングルのサルや夜行性のサルなど、中南米の珍しいサルを集めた「南米館」ほか多種の猿舎がある。また、新しい試みとして、サルたちをおりから出し自然に近い環境において、彼らの行動特性や学習能力などを楽しみながら学べるよう工夫がなされている。97年(平9)年に完成された「リスザルの島」「モンキーバレイ」「テナガ・クモザルの島」がそれである。

子どもたちは、「さるの学習ひろば」でサル類に関するより深い知識が得られる。ここには「サルの特徴」「サルの分布」「いろいろなサル」などの常設展示室や学習参考室がある。また、200人収容できるホールで映像機器を用いて多彩な講座や講演会などを催したり、モンキーセンターの職員に解説を依頼することもできる。

所在地 愛知県犬山市大字犬山字官林 2-1
☎ (0568) 61-2327 有料
アクセス 名鉄「犬山遊園」・モノレール
[参考資料] 『サルの博物館 ZOO GUIDE BOOK』・パンフレット類 (日本モンキーセンター刊)

名古屋市東山総合公園動植物園 なごやしひがしやまそうごう

1890年(明23)から一般公開されていた浪越教育植物苑が、1917年(大6)に名古屋市に寄付されたのを機に、翌年4月に、名古屋市立鶴舞公園附属動物園として開園。その後敷地が手狭になり、設備も旧式化したため、37年(昭12)に現在の東山へ移転。名称も名

古屋市東山動物園と改め、近代動物園として東洋一を誇った。戦争激化のため45年（昭26）には一旦閉園したものの、翌年3月には再開園、68年（昭43）動物園と植物園を一体化して、東山動植物園として運営されるようになった。

動物園—戦前戦後を通して生存したアジアゾウ、1955年（昭30）から65年（昭35）における世界にも例のないゴリラショー、73年（昭48）のインドサイ導入、84年（昭59）のコアラ来園、89年（昭64）の夜行性動物の生態も観察できる自然動物館の開館、93年（平5）のメダカの種類260余種を展示した世界のメダカ館の開館などと発展を遂げ、移転後60年の歴史をもった日本を代表する動物園の1つとなった。収容動物は現在626種、21705点。

近年では、環境教育と、希少動物の種の保存という大きな目標をかかげている。この観点から、人間も生物界の一員であることを認識できるように、動物会館（子ども動物科学館）を開設したり、「こども動物園」の展示ゾーンには、日本の低山で見かける野生動物、タヌキ・キツネ・イタチの展示コーナーや、小鳥やリスを放し飼いにした「小鳥とリスの森」を設けたりしている。

また近年改築されたクマ舎や自然動物館などには、より一層自然を織り込んだ動物園への転換が感じられる。

子どもたちにとっては、「こども動物園」の「ふれあい広場」で、ヤギ・ヒツジに餌を与えたり、ウサギ・モルモットと一緒に遊ぶことができ、とくに夏休みの催しである「サマースクール・動物コース」では、飼育係としての体験ができる。

さらに動物会館には動物図書館や動物相談コーナーがあり、動物について調べたり、相談したりすることができる。

植物園—保有する植物の数は約5500種。敷地面積約27万m²を有し、その60%は二次林で、丘陵地にあり、温室を中心にお花畑やアメリカ産・中国産植物などの見本園が、谷と尾根に配置され、散策路も整備されている。

12の部屋からなる温室には、ラン、ヤシ類、食虫植物、世界最大のサボテンのサガァロなどがある。また園内には「万葉の散歩道」があり、万葉集のなかで植物を詠んだ歌を100首選び、植物園内の自然景観に合わせて植物を植え、歌碑や歌看板を設置した散策路となっており、「東海の森」も、東海地方に分布する代表的な植物を集めた散策路で、四季の移り変わりを楽しみ、「グリーン・オリエンテリング」もできる。

そのほか園内には、武家屋敷門、白川村から移築した合掌造りの家などの文化財や、世界遺産である縄文杉のレプリカが展示されている。

行事として「サマースクール・植物コース」や子ども向けの自然観察会が開かれている。なお、環境庁による「残したい日本の音風景100選」に、植物園一帯の野鳥の声が選ばれている。

所在地 名古屋市千種区東山元町3-70

☎ (052) 782-2111 有料（中学生以下無料）

アクセス 地下鉄「東山公園」駅、または「星が丘」駅

【参考資料】『東山総合公園事務局事業概要』（同動植物園刊）

名古屋港水族館 なごやこうすいぞくかん

1992年(平4)10月に「生き物を見せるだけでなく、それを通して環境と生き物との関わりを知り、自然の大切さを感じてもらおう」ために、名古屋港管理組合が創設。「南極への旅」という展示テーマのもとに「日本の海」「深海」「赤道の海」「オーストラリア」「南極の海」の5つの水域・地域に住む生き物を紹介している。また、生き物の調査・研究・保護繁殖・教育活動にも積極的に取り組んでいる。

「南極への旅」という展示テーマは、小さな入江をはさんだ対岸に85年(昭60)から永久係留されている南極観測船「ふじ」に因んでいる。水族館での「南極の旅」を終えポートブリッジを渡ると、実際に南極観測に出かけた「ふじ」があり、観測の様子を船内で見学できる。

この水族館の展示で顕著なのは、「赤道の海」のウミガメと「南極の海」のペンギンで、他の水族館に見られない規模を誇っている。「ウミガメの回遊水槽」では、巨大なドーナツ型の水槽をアカウミガメやアオウミガメが悠々と泳ぐ姿がガラスごしに見られる。また、室内で初めて産卵のための人口砂浜を設け、実際に産卵・孵化に成功している。「ペンギン水槽」では、人口の雪を降らせたり、生殖周期が狂わないように季節による光や温度の変化を微妙に調整するなど、南極の環境を再現した部屋にアデリーペンギンやキングペンギンなど4種が生活している。

このほか「深海」に住む珍しい海面動物のカイロウドウケツなど、全部で約450種3万点ほどの生物を68の水槽(約2430トン)で

飼育展示している。

子どもたちには、単に見るだけでなく、海の生物を知り生命の大切さを理解できるよう体験型の「タッチタンク」と「スクール」を開設している。「タッチタンク」では、ウニやヒトデ、カニなど潮だまりや、干潮時に水がなくなる潮間帯ちようかんたいにすむ生き物に直接触れ、そのような生物にも命があることを肌で確かめることができる。また、夏と冬には飼育員とボランティアが講師となって小学生を対象とした「スクール」を開いている。

所在地 名古屋市港区港町1-3

☎ (052) 654-7080 有料

アクセス 地下鉄「名古屋港」駅

[参考資料] パンフレット・リーフレット類
(同水族館刊)

愛知県弥富野鳥園 あいちけんやとみやちようえん

野鳥の生息環境を保全し、野鳥保護思想の普及と啓発を図るため、鍋田干拓地の一角に愛知県によって造成され、1975年(昭50)に開園。木曾川、長良川、揖斐川の三大河川の河口から、庄内川河口にかけての一带は、水鳥を主とした渡り鳥の中継地、渡来地であり、昔から全国でも有数の野鳥の宝庫として知られている。

野鳥園は、総面積が約357000m²。海拔0~4mの平坦地に池、ヨシ原、草原、樹林池などが、人工的に造成されており、四季折り折り年間100種類の野鳥を観察することができる。春はヒバリ・キジ・セッカ・バンなど約35種類。夏はツバメ・セイタカシギ・オオヨシキリ・アマサギなど約25種類。秋はマガモ・コガモ・ヒドリガモ・オナガガモなど約40種類。冬はオオタカ・チョウヒ・ツグミ・シジュウカラなど約40種類が見られ

る。

これら多種類の山野の鳥や水辺の鳥が、自然の中で生息する様子を、本館3階の展望室から大型双眼鏡でころいくまで観察することができる。一見、海のように見える水辺に、長いくちばしで砂の中の貝やエビ、ゴカイなどを探りながらゆったりと歩くシギたちと、その間をちょこまかと走り回るチドリたち。子どもも大人も区別なしに見入ってしまう。

また、本館2階では、展示パネルなどにより野鳥について学習することができる。5、6、8月を除いて、毎月1回「探鳥会」を行っており、誰でも参加できる。来園者の休憩、散策のできる小公園約3万m²もある。

所在地 海部郡弥富町大字上野2-10

☎ (0567) 68-2338 無料

アクセス 近鉄「弥富」駅・バス「弥富野鳥園」

[参考資料] リーフレット類(同野鳥園事務所刊)

愛知牧場 あいちほくじょう

1954年(昭29)に〈有〉愛知兄弟社によって設立された。名古屋近郊では珍しい本格的な牧場である。20万m²もある広大な牧草地でホルスタインを200頭飼育し、新鮮な牛乳を直売しており、憩いの場として牧場を開放している。

〈自然とのふれあい〉をテーマとしていて、「どうぶつ広場」には、やぎ・ひつじ・うさぎなどの小動物、放し飼いのにわとりがいる。馬舎にはえさがおいてあり、気楽に馬とふれあったり、引き馬でポニーやサラブレッドに乗ることもできる。

そのほかパターゴルフを楽しんだり、予約をすればバーベキューをしたり、乳搾り・バター作りの体験もできる。また、「牛乳工場

モーハウス」のしぼりたての牛乳とソフトクリームも好評である。

所在地 日進市米野木町南山977

☎ (05617) 2-1300 無料(一部有料)

アクセス 名鉄「黒笹」駅

[参考資料] リーフレット類(同牧場刊)

南知多ビーチランド みなみちたびーちらんど

1980年(昭55)に、三河湾国定公園の一角にある美浜町の伊勢湾岸に、10万m²の敷地を持つ水族園と遊園地を併せた総合海浜公園が名古屋鉄道株式会社により創設された。

水族園にはイルカ・アシカのショースタジアム、1000トンの魚類の大水槽、イルカに触れることができるタッチングプールなどがある。また、遊園地にはジェットコースターや観覧車、メリーゴーランドなど多彩な娯楽施設がそろっている。開園後も順次ラッコ館や海獣広場、極地どうぶつ館などが拡充され、海の動物も増えてきている。

園内各所で行われる「ふれあいタイム」のなかでは、えさを与える体験などを通してアザラシやペンギンたちと触れ合うことができる。また、夏休みには、「水族館お泊まり体験」や、水族館の裏側をウォッチングする「イルカ教室」、「地引き網」などの研修に参加することができる。

所在地 知多郡美浜町奥田428-1

☎ (0569) 87-2000 有料

アクセス 名鉄「知多奥田」駅

緑化センター りょくかせんたー 昭和の森 しょうわのもり

「緑化センター」は、1976年(昭51)に、愛知県が緑化の推進と自然に親しむ場として開設。日本庭園を始め広大な芝生園やオーストラリア庭園、花木展示林及び本館における

各種緑化に関するパネルなどの展示を行っている。また、緑化研修をはじめ子どもも参加できる、みどりの教室や草木染め、工作、昆虫・野鳥観察などのできる野外教室が年間を通して開かれている。とくに夏休みには宿題を兼ねて参加する子どもたちが多い。

緑化センターに隣接する「昭和の森」は遊具をも含んだフィールドアスレチック、野鳥観察路、バーベキュー用の野外炉、および森林に関する展示のある交流館など各種の施設が配置され、自然と緑に親しみ、憩いの場として利用されている。

所在地 西加茂郡藤岡町大字西中山字猿田21-1

☎ (0565) 76-2106 無料

アクセス 名鉄「豊田市」駅・バス「緑化センター」

[参考資料] リーフレット類(同管理事務所刊)

豊田市鞍ヶ池公園 とよたしくらがいけこうえん

江戸時代初期にかんがい池として「鞍ヶ池」が築かれたがその池を中心に、1964年(昭39)に市民の郊外レクリエーション施設として豊田市が公園を開設。100万m²もの広大な敷地には、「鞍が池エリア」、「動物園エリア」、「若草山エリア」、「ドライブコースエリア」の4つのエリアがある。

鞍が池エリアには、周遊道や遊具のあるちびっこ広場があり、池ではボートも楽しめる。動物園では、アムールトラをはじめ、カンガルーなど14種類55頭のは乳類と25種128羽の鳥類を展示。観光牧場には乳牛や木曾馬が放牧され、「ふれあい広場」では小動物に触れることもできる。若草山には、スーパーモービルが通じ、植物園もある。芝生広場には、子どもたちが自由に遊び回れる大き

な空間があり、弁当を広げるにも最適。四季折々に美しい遊歩道の散策や展望台からの眺望も楽しめる。

所在地 豊田市矢並町法沢714-5

☎ (0565) 80-5310 無料

アクセス 名鉄「豊田市」駅・バス「鞍ヶ池公園」

[参考資料] 『広報とよた』第860号(豊田市刊)

おかざき東公園 おかざきひがしこうえん

四季を通じて楽しめる市民の憩いの場として1928年(昭3)に、岡崎市により開園。その面積が26.4万m²の総合公園となっている。大小6つの池があり、自然と文化の公園として親しまれている。

岡崎市出身の世界的地理学者、志賀重昂^{じょうこう}ゆかりの釈迦堂、南北亭や、鋼鉄研究の世界的権威である本多光太郎博士の勉強部屋も移築されている。また、「文化の散歩道」として、岡崎ゆかりの著名人の碑をめぐって散策できるようになっている。初夏には花菖蒲^{しょうぶ}、秋には紅葉の名所として知られ、ランニングコースやオリエンテーリングコースなども設けられている。

子どもたちには、ゾウ、サル、鳥類などの「小動物園」があり、とくにゾウやシカには、えさを自分で与えることができる。また、本多博士の勉強部屋には、ロボットKS君が設置され、KS鋼の発明などの博士の偉業を、顔や手、目などを動かしながらKS君が巧みに解説している。

所在地 岡崎市欠町字大山田1-1

☎ (0564) 24-0050 無料

アクセス 名鉄「東岡崎」駅・バス「東公園」

[参考資料] リーフレット類(岡崎市役所刊)

IPCわんわん動物園 あいびーしーわんわんどうぶつえん

犬を中心とする日本で最初の動物園で、1993年（平成5）に株式会社アイピーシーにより設立。世界各国を代表するさまざまな犬、約125種450匹が展示されている。

園内には大型犬、小型犬それぞれの「ふれあいコーナー」があり、実際に犬に触れたり抱いたりして、犬とコミュニケーションをとることができる。そして、ステージでは、「わんわんクイズ大会」が開かれ、犬についての知識を深めたり、競馬のように犬たちがコースを走る「わんわんレース」を楽しむこともできる。また、犬がジャンプしてフリスビーをあざやかにキャッチする「フリスビーステージ」や、羊たちをあっという間に柵の中に追い込む「牧羊犬ショー」も開かれる。ゴールデンウィークなどに、「犬のしつけ教室」が開催され、犬の訓練士によるデモンストラクションを見学することにより、家での飼育法のポイントを学ぶことができる。1998年1月（平10）に、拡張工事を終え、リニューアルオープンしている。

所在地 岡崎市大平町字川田 46-1

☎ (0564) 26-3884

アクセス 名鉄「男川」駅 有料

[参考資料] リーフレット類（同園刊）

高浜市郷土資料館 たかはましきょうど じりょうかん

1958年（昭33）、衣浦大橋完成を機に、衣浦湾や三河湾内で取れる貝を観光資源として陳列することになり、「高浜町観光センター・貝の博物館」が開設された。その基を築いたのが、秘蔵の貝殻を寄付した故林獎一郎で、そのなかには学術的にも貴重なクマサ

カガイ、アキアゲエビスなどが含まれていた。開設当初では約900種1,500点を陳列展示。その後1979年（昭54）市立図書館開設を機に、その2階に移転。特産の〈鬼瓦〉などの郷土資料とともに近海でとれた貝殻を中心に、約3,000点の色とりどりの貝殻が陳列展示されている。そのなかにはクレハガイなど、すでに死滅した10数種の貝殻があり、また蛇の形をしたワケヘビガイ、サメの形をしたシュモクガイ、紫色のヒオウギガイ、毒を射して敵をしびれさせるイモガイなど、珍しい貝殻もあって、その種類の多さと形と色の多様さに驚かされる。

この〈貝のコレクション〉は、さまざまな貝殻を通して海の古い住人に親しめる場であり、社会見学に訪れた小学生たちを魅了している。

所在地 高浜市碧海町5-1-5

☎ (0566) 52-0240 無料

アクセス 名鉄「高浜港」駅

[参考資料] パンフレッド類（同資料館刊）

碧南海浜水族館 へきなんかいひんすいぞくかん 碧南市青少年海の科学館 へきなんしせいしょうねん うみのかがくかん

海と川とに深く関わりながら発展した碧南市が、1982年（昭57）に、郷土色豊かな水族館と未来への展望を学習することのできる「海の科学館」を目指して開設。

水族館には、大水槽、潮間水槽、矢作川コーナー水槽など約50の水槽があり、約400種類4000点の生物を展示。北海道から沖縄まで日本各地で見られる水生生物を紹介している。とくに「日本の絶滅のおそれのある野生生物」（環境庁、1991）にリストアップされた、淡水魚ウシモツゴ・イタセンバラ・ネコギギの3種の繁殖と種の保存に取り組んでい

る。

「海の科学館」では、昔は海であった油ヶ淵あぶらがふちの新田開発、矢作川の水運の移り変わり、衣浦港の成り立ちを紹介している。

子どもたちを対象として、市内の2・4・6年生の校外学習を受け入れ、夏休みには、工作教室とサマースクールを開催している。また、自然観察会を年7回実施し、矢作川・野間海岸・葦毛湿原いもつげんなど身近な自然を観察している。

所在地 碧南市浜町2-3

☎ (0566) 48-3761 無料(一部有料)

アクセス 名鉄「碧南中央」駅、または「碧南」駅

[参考資料] 『碧南海浜水族館・碧南市青少年海の科学館年報1995』・リーフレット類(同水族館・同科学館刊)

豊川市赤塚山公園 とよかわしあかつかやまこうえん

東三河を流れる豊川の自然を再発見しようと、1993年(平5)に開園した。

公園のメインは、豊川に棲む魚や生き物、世界の熱帯魚などをわかりやすく展示した全国的にも珍しい淡水魚水族館「ぎょぎょランド」である。2階は地域の自然や生き物についての科学展示コーナーになっていて、クイズやスロットマシーンもある。

さらに広大な芝生には、ふれあい動物広場「アニアニまある」があり、ポニー、ヒツジ、ヤギ、アヒルなどの動物がいる。池の周辺には梅園や菖蒲園しょうぶなどもあり、花の咲く季節は憩いの場所になっている。またユニークなデザインの「水の広場」では水遊びができる。

所在地 豊川市市田町東堤上1-30

☎ (05338) 9-8891 無料

アクセス 名鉄「国府」駅・バス「ぎょぎょランド」

[参考資料] リーフレット(同公園刊)・名古屋どろんこ隊『97愛知あそび場ガイド』(丸善メイツ刊)

豊橋総合動植物公園 とよはしそうごうどうしょくぶつこうえん 豊橋市自然史博物館 とよはししぜんはくぶつかん

ニックネームの「のんほい(豊橋弁であるのの意味)パーク」は、1992年に開館したとき一般公募によってつけられた。総面積40万m²、園内の動物は142種、700近い動物がいる。これらの動物をできるだけ野性に近い形で展示、飼育している。アフリカのサバンナにいる大型の草食動物たちがのんびりと遊ぶアフリカ園や、昼と夜が逆さになった夜行性動物館、94年(平6)にオープンしたなかよし牧場、96年(平8)にオープンした郷土の動物園(ツキノワグマ、タヌキ、キツネなど)など多種多様である。

植物園の温室には〈常夏の景〉をテーマに熱帯および亜熱帯の植物を再現し、屋外植物園には、既存林を生かした郷土の森を中心に〈生活の景・伝統の景・生態の景〉を配置して特徴ある展示をしている。

そのほか遊園地には、メリーゴーランド、大観覧車、子ども汽車などがあり、楽しむことができる。

自然史博物館は、〈生物の進化と郷土の自然史〉をテーマに、1988年(昭63)に市制施行80周年の記念事業として、建設された。自然について正しい知識をもち、自然に親しみ、自然と生物の成り立ちについて理解を深めてもらうことを目的としている。展示内容は、海で多様化した生きものたちが陸地へ侵出していった様子を紹介する「古生代展示室」、恐竜たちが栄えた時代の「中生代展示室」、哺乳類の時代「新生代展示室」に分けて

あり、多くの化石や模型、ジオラマによって生物の進化を楽しく見ることができる。とくにアナトサウルスの全身骨格は、90%が実物の化石である。「郷土の展示室」では、豊橋市を中心とした東三河地方の地質や動植物を紹介している。郷土での研究の歴史や地質をはじめとして、数多くの標本やジオラマで海・川・陸の自然をわかりやすく解説している。

そのほか、大型映像の上映や自然史講座・学習教室を行っている。

所在地 豊橋市大岩町字大穴1-238

☎ (0532) 41-2185 有料

アクセス JR「豊橋」駅・バス「のんほいパーク前」

[参考資料] パンフレット・「ぶんか」第83号
(同動植物公園)

鳳来寺山自然科学博物館 ほうらいじしぜんかがく ほくぶつかん

1963年(昭38)に鳳来町によって創設された。名勝天然記念物の指定を受けている鳳来寺山を中心とした周辺(動物、植物、地学)の資料の収集、保存、展示をしている。

展示は全国的にめずらしい二重展示方式で誰にでも理解され、楽しむことができる生態展示と、さらに深く研究するのに便利な分類展示を併用している。ケース展示のほか、岩石類は実際に手で触れて観察できる。野外学習会、特別展示も行っている。

子どもたちにとっては、外のフィールド(鳳来寺山)自体が生きた博物館である。先に博物館を見学して、自然の知識を得てから鳳来寺山に出かけ四季の自然や生物の観察をすると、より深く楽しむことができる。

またコノハズクを呼び戻すため、生息調査や保護活動など、同館を中心に様々な取り組みをしている。

所在地 南設楽郡鳳来町門谷字森脇6

☎ (05363) 5-1001 有料

アクセス JR「本長篠」・バス「鳳来寺」

[参考資料] リーフレット・友の会資料(同館刊)

〈産業の部〉

一宮市博物館 いちのみやしほくぶつかん

1960年(昭35)から始まった市史編さん事業を通して、市が調査・研究・収集した地元(1)の資料を公開するために、1987年(昭62)に開館した。

織物のまちの特徴を活かした織機をはじめとする綿織物・毛織物産業に関わる資料、市史編さんのなかで収集した考古資料、市域で使われていた民俗資料などを展示している。織物機など繊維産業の変遷をメインテーマとしているが、縄文時代から古墳時代の出土品、鎌倉、室町時代にいたるまでの郷土史を知る貴重な資料が幅広くある。

子どもとの関わりは、常設展示のなかで踏臼(1)を体験できるほか、クイズもある。また学習室の児童用図書を増やしつつある。年5回の特別展・企画展を開催し、企画展では、「くらしの道具-今と昔-」という小学校3年生用の展示を毎年1月~2月に行っている。講座が開かれ、土器作り・織物作りなどを体験できる。

所在地 一宮市大和町妙興寺2390

☎ (0586) 46-3215 有料

アクセス 名鉄「妙興寺」駅

中日新聞社 ちゅうにちしんぶんしゃ

創業は、「新愛知」の源流「無題号」と「名古屋新聞」の源流「金城だより」が名古屋で創刊された1886年（明19）にさかのぼる。「新愛知」と「名古屋新聞」は、1942年（昭17）に合併、中部日本新聞社が誕生した。1971年（昭46）に現社名に改めた。

地域密着の一般紙として、名古屋、東京、北陸、東海の各本社で「中日新聞」「東京新聞」「北陸中日新聞」、スポーツ紙として「中日スポーツ」「東京中日スポーツ」の計5銘柄を発行するわが国唯一の多極発信型新聞社である。その総発行部数は449万部。

小中学生の社会見学施設の一つとして社内見学案内を行っている。見学内容は、映画「未来をつくる新聞」と印刷工場・新聞発送場の見学。

所在地 名古屋市中区1-6-1
☎ (052) 201-8811 (代) 無料 (要予約)
アクセス 地下鉄「丸の内」駅

東海銀行貨幣資料館 とうかいぎんこうかへいしりょうかん

1961年（昭36）に貨幣類を経済資料、文化資産として体系的に保存し社会貢献に役立てるため、本店向かいの御幸ビル1階に開設された。常設展示は4つのコーナーから構成され、「日本の貨幣」「中国の貨幣」「外国の貨幣」「ひろしげ広重の東海五十三次版画」がある。

日本初の貨幣「わ どうかいぼう和同開珎」をはじめ、古代中国の貝貨、刀貨など紀元前から現在まで約1000点が展示されている。ビデオコーナーが設置されており、「日本の貨幣」「ひろしげ広重の世界」が利用出来るようになっている。小・中学生の社会見学の一環にもなっている。

所在地 名古屋市中区錦3-20-27 御幸ビル
1F

☎ (052) 211-1111

アクセス 地下鉄「伏見」駅 無料

[参考資料] パンフレット・リーフレット類
(同資料館刊)

名古屋市農業センター なごやしのうぎょうせんたー

1955（昭30）年市町村合併にあたって、農業研究施設新設の要望があり、名古屋市における都市農業の振興をはかるために、伊勢湾台風で閉鎖に追い込まれた名古屋市養鶏指導場の再建を含めて、平針の丘陵地に65年（昭40）に開設。市民菜園を開園、名古屋コーチン復活に取り組むなど、農業技術の研究・指導を行っているほか、教材園的な色彩を取り入れた市民の憩いの場として、あるいは農業知識の啓発向上の場、農業に親しむ農業公園として公開している。敷地面積は83905m²。

通常このセンターで、子どもたちは牛・豚・羊・山羊・鶏など家畜家禽、野菜・草花の栽培を見学できる。とくに夏休みには「農業体験教室」、「親子乳しぼり教室」が開かれ、「農業センターまつり」や「しだれ梅まつり」期間中には、「家畜ふれあい広場」「乳しぼり実演」など、子ども向け行事が実施される。

所在地 名古屋市天白区天白町大字平針字黒石
2872-3

☎ (052) 801-5221 無料

アクセス 地下鉄「平針」駅

愛知県農業総合試験場 あいちけんのうぎょう 農業民俗館 そうごうしけんじょう のうぎょうみんぞくかん

農業に直接携わっていない県民にも親しまれる農業試験場となるために、公園施設の一環として、1971年（昭46）に開館。敷地面積が125万m²の丘陵地にある農業総合試験場のなかに併設されており、農機具・資料など

を保存・展示することによって、農業に対する理解を深めるという、教育的な役割を果たしている。敷地面積は6500 m²、建物面積は853 m²。展示内容は耕種・茶業・養蚕・畜産・生活・農業の歴史・愛知県の農業の現状など、いくつかのコーナーに分かれている。

子どもたちは愛知県内で実際に使用された明治・大正・昭和初期の農具・生活用具の実物を見ることにより、農業技術の変遷と農家の生活の変貌を知ることができる。とくに小学校3年生から5年生の社会科において、農業を理解・学習するうえで役に立つ。また農業試験場内にある園芸・養鶏・畜産・作物などの研究所の見学も可能である。

所在地 愛知郡長久手町大字岩作字三ヶ峯1-1

☎ (0561) 62-0085 無料(団体要予約)

アクセス 地下鉄「藤が丘」駅・バス「農業試験場」

[参考資料] リーフレット類(同試験場刊)

弥富町歴史民俗資料館 むとみまちりきふくぞうりょうかん

弥富町は、古くから木曾川下流に開拓された水郷地帯。1991年(平3)に弥富町によって開設された同館は、小規模だが地域の農具・漁具・町の歴史とともに、いずれも日本一を誇る「金魚」「文鳥」産業の由来を、ビデオや立体映像、ジオラマを使って、子どもたちにもわかりやすく紹介している。

「金魚」生産は、江戸時代に奈良県郡山の金魚商人が、東海道の渡船場だった前ヶ須の宿で、肩荷で揺られて疲れた金魚を池でしばらく休ませたことが始まり。もともと水利・水質・えさに恵まれていたので、明治初期に生産的な養殖がはじまった。スペース・シャトルに乗って宇宙へ行った鯉と金魚は、どちらも弥富の生まれ。92年には毛利衛さんと錦鯉

2匹が、95年には向井千秋さんと金魚6匹が、宇宙酔いの原因を解明するために参加し、話題となった。

「文鳥」は、江戸時代末からこの辺りで飼育が流行し、明治の初めに遺伝の突然変異によって「白文鳥」が誕生。以後、優良品種改良が重ねられ特産地として発展している。

所在地 海部郡弥富町大字前ヶ須新田字野方731

☎ (0567) 65-4355 無料

アクセス JR・近鉄・名鉄「弥富」駅

[参考資料] 「弥富の金魚」(弥富金魚協同組合刊)・「やとみ」(弥富町役場刊)

カゴメ記念館 かごめきねんかん

カゴメ株式会社発祥の地であり、また最初の近代的な工場が建てられたゆかりの地でもある上野工場の一角に、1974年(昭49)、同社がトマトとどのように関わってきたかを広く知ってもらおうと、開館された。

90余年にわたるトマト加工技術の発展過程や原料トマト栽培技術の変遷、あるいは植物バイオ技術の成果などが展示してある。さらに創業者蟹江一太郎の執務室が再現しており、そこには愛用のスーツケースや信玄袋などが展示され、創業当時をしのぶことができる。

また明治時代の珍しい道具類から、今日の製品までの展示をみることによって、トマトと共に歩んできたカゴメの歴史を知ることができる。

所在地 東海市荒尾町東屋敷108

☎ (052) 603-1161 無料(要予約)

アクセス 名鉄「新日鉄」駅

[参考文献] パンフレット(同記念館刊)

知多火力発電所 知多電力館 ちたかりよくほつでんしよ ちたでんりよくかん

中部電力が、電気に関する利用や立地などについての理解、および地域と発電所との共生を図るために、1979年（昭54）9月に開館。最近のメディア機器を導入し、とくに次世代層である子どもに配慮するとともに、地域との交流にも重点をおいて、暮らしに欠かすことのできない電気に関するさまざまな知識を、見たり、触れたり、参加しながら理解できるように工夫されている。

蒸気タービン、火力発電所6号機のしくみの模型、中央制御室の模型の展示ほか、自転車型発電機で発電させる「人力発電ゲーム」、電磁力の強さを体験する「象さんと力くらべ」や、エネルギーの世界を学ぶ「ベスト・ミックスゲーム」、正解すると景品がもらえる「発電情報コーナー」などがある。毎年6～8回、「科学教室」を開催。

発電所構内の見学では、発電機の実物を見学したり、自然環境と発電所の調和も体験することができる。

所在地 知多市北浜町 23
☎ (0562) 55-8311 無料（要予約）
アクセス 名鉄「古見」駅
[参考資料] リーフレット類（同電力館刊）

博物館 酢の里 はくぶつかんすのさと

株式会社中壱酢店（ミツカン酢）が、昔から日本で使われている調味料の1つである〈お酢〉と〈酢造り〉の心と技を経験してもらうために、1986（昭61）年に、本社工場の一部を改装して、日本初の酢の総合博物館を創設。黒い屋根瓦に黒い塀の蔵は、190年の歴史を語っている。

子どもたちは、スライドによる酢作りの説明や、江戸時代から昭和初期にかけて使われた道具類 300 点の展示、発酵室など現在の酢造り工程の一部を見学することで、酢の歴史や昔と今の酢造りの違いなど、さまざまな酢に関する知識を得ることができる。発酵という微生物の働きで、長い時間をかけて酢ができあがるため、機械や人がほとんど見られない静かな工場であること、酢の香りを実際に嗅ぎ、目と鼻で酢造りを経験できることが特徴である。なお、酢造りの紹介は、ストーリー仕立てで、人形の展示によって説明されている。

所在地 半田市中村町 2-6
☎ (0569) 24-5111 無料（要予約）
アクセス JR「半田」駅、または名鉄「知多半田」駅

窯のある広場・資料館 かまのあるひろば・しりょうかん 世界のタイル博物館 せかいのたいるはくぶつかん

株式会社 INAX（イナックス）が、日本6古窯の一つ、常滑の産業遺産でもある古い土管工場の窯と建物、煙突を保存し、1986年（昭61）に資料館として一般公開した。木造2階建、瓦葺の建物は、面積が373㎡で、国の有形文化財になっている。

また資料館は、世界25カ国、約6000点のタイルを所蔵する「山本コレクション」の調査・研究を常滑市から委託され、さらに一般に公開するために97年（平9）に隣接して「タイル博物館」を併設した。資料館には、明治・大正・昭和初期の洋風建築の外観を飾ったテラコッタの展示と、染付古便器150点が展示され、子どもたちは歴史と暮らしの中の産業や、暮らしの中の便器について学ぶことができる。

タイル博物館には、オリエント、イスラム、スペイン、日本など7つに分類されたタイルが展示され、子どもたちは紀元前から近代に及ぶ世界のタイルの歴史や文化的背景、製造法や施工法などを学ぶことができる。

所在地 資料館一常滑市奥栄町1-47

☎ (0569) 34-6858 有料
タイル博物館

☎ (0569) 34-8282 有料

アクセス 名鉄「常滑」駅・知多バス「常滑東口」
[参考資料] リーフレット類(同資料館、同博物館刊)

醸造 伝承館 じょうぞう でんしょうかん

昔使用した味噌・醤油の醸造用具が蔵に点在していたのを、醸造に関心をもってもらう目的で、これらを一個所に集めて「伝承館」として、1987年(昭62)に開館した。

創設者は、1879年(明12)創業の合名会社「中定商店」。日本三大銘醸地の一つに上げられる知多地方は、昔から各種の醸造業とともに栄え、とくに武豊は、温暖な気候に恵まれ、港と鉄道を利用し販路を拡大し、昭和初期には味噌・醤油の業者も50軒余りと隆盛を極めた。しかしその後、時代の変遷とともに大きく変わり、現在に至っている。

同館は、1930年(大5)に建築した木造瓦葺延べ20m²の、通称「大五蔵」と呼ばれる塩蔵しおくらとして使用していた蔵に、昔の醸造用具や資料が展示してある。これらの道具類をじかに触れて確かめることができる。また昔の帳面などや書籍類も閲覧し、読むことができる。

所在地 知多郡武豊町字小迎51

☎ (0569) 72-0030 無料

アクセス JR「武豊」駅

八丁味噌の郷 史料館 はっちょうみそのさと しりょうかん

合資会社八丁味噌(カクキュー)が、300年の伝統をもつ八丁味噌の歴史を後世に残したいという意図から1907年(明40)に建てられた味噌蔵「大蔵」おおくらを史料館に改装して、1991年(平3)に開館。「大蔵」は、木造2階建て、建築面積463m²で、国の登録文化財になっている。八丁味噌は大豆・塩・天然水に恵まれた土地柄をいかして、岡崎の八丁村で誕生した。

史料館では、明治期における伝統的な醸造方法をわかりやすく展示説明している。とくに〈味噌玉を塩水とこね合わせる〉〈大桶へ運ぶ〉〈踏み込みをする〉〈水を計る〉という役目の、5人が働く仕込みの作業風景と、大豆を蒸す作業風景は等身大の人形を使って再現されている。そのほか、江戸時代の大豆買取帳・出荷記録などの史料、桶・樽製造用の道具も見ることができる。なお希望に応じて、現在の八丁味噌の製造工程もビデオで鑑賞できる。

所在地 岡崎市八帖町字往環通69

☎ (0564) 21-1355 無料(要予約)

アクセス 名鉄「岡崎公園」駅

[参考資料] 『カクキュー八丁味噌が歩んだ三百五十年』(償八丁味噌史料室刊)、リーフレット類(償八丁味噌刊)

岡崎信用金庫資料館 おかざきしんようきんこしりょうかん

この資料館が作られた目的は、貨幣と貨幣によって成立した商いについて展示し解説するとともに、1917年(大6)に旧岡崎銀行本店として建設された歴史的建築物を、維持保存するためである。1945年(昭20)に岡崎空

襲を経験し、50年（昭25）以降岡崎商工会議所として補修使用されてきたが、82年（昭57）同会議所の移転に伴い、岡崎信用金庫が修復し資料館とした。

当時東海地方で屈指の西洋建築家鈴木禎次^{ていじ}が設計した、本格的なルネッサンス様式のレンガ造り建築で、近代西洋文明の流れを身近に感じることができる。82年に社団法人日本建築学会より建築学的に貴重であると思われる2000棟の1つに選ばれた。

1階展示室には、「当信用金庫の歩み」「愛知の地場産業」「色々な貯金箱」「市民ギャラリー」などのコーナーがあり、2階展示室には「暮らしの商い」「世界の貨幣」のコーナーがある。日本の貨幣は和銅開珎^{わどうかいほん}の古代から現代に至る各時代の紙幣105点、硬貨140点が展示されている。

所在地 岡崎市伝馬通り1-58
☎ (0564) 24-2367 無料
アクセス 名鉄「東岡崎」駅
[参考資料] 「岡崎信用金庫資料館の概要」・リーフレット類（同信用金庫刊）

あいや茶資料室 あいやちゃしりょうしつ

西尾にお茶が伝わったのは鎌倉時代中期で、お茶の本格的な栽培が行われたのは、明治時代からである。矢作川の豊かな水と肥沃な土壌と、お茶作りに適した風土が、お茶作りを盛んにし、全国の約60%のてん茶（抹茶に挽く前の原材料）生産量を誇り、西尾市は日本一の抹茶製造産地である。

㈱あいやは、1888年（明21）に緑茶製造を開始して以来、現在ではてん茶工場、抹茶工場を有し、その生産量は市場の40%を占めている。1994年（平6）新社屋建設と同時にコンサートホールを作り、無料開放している。

本社工場二階に上がると、見学コースがありガラス越しに抹茶を挽^ひいているのを見ることができる。展示室では、パネル展示で抹茶の歴史を紹介するほか、数々の茶道具が並んでいる。ビデオ室もあり、お茶の試飲もできる。

所在地 西尾市上町15
☎ (0563) 56-2233 無料（要予約）
アクセス 名鉄「西尾」駅
[参考資料] パンフレット類（同資料室刊）